

誌上行学講習会

高佐日焯上人

私は朝鮮の寺をあちこち廻りまして、大山は、何とやら坊さん
 の通士寺といふ朝鮮の寺に、大里の山に、約十里あり、土
 が、通士寺の間の日本に、限ち田島は、全部お寺の土地
 があり、その間は、見渡す限ち、色々の田島は、全部お寺の土地
 の僧侶は、名ばかりで、実は、農奴のよう存在だ、とい
 うことでありました。中、僧侶を一切入れ、それな
 くて、李王は、京城の門の中に、僧侶を一切入れ、それな
 寺も、建立させ、此の佐野前、上、人が、日本大使館を日
 露戦争の後、此の佐野前、上、人が、日本大使館を日
 通じて、李王に、見を、申し、入、れ、て、金、の、香、炉、を、献
 した、ので、あり、ます。実は、な、まり、の、香、炉、に、金、の、メ、ッ、キ、を
 おどろ、いて、李王、も、快、く、見、え、入、れ、ま、し、た。香、炉、に、佐
 野前、上、人、は、仰、々、しく、大、見、え、入、れ、ま、し、た。香、炉、に、佐
 行列、を、ひ、き、いて、つ、い、台、に、乗、っ、て、参、り、ま、し、た。ま
 さ、に、大、芝、居、を、う、つ、た、わ、け、で、あ、り、ま、す。
 この、国、へ、参、り、ま、し、て、も、僧、侶、を、入、れ、な、い、ち、よ、う、に、一、ど
 ま、い、ケ、チ、な、考、へ、を、も、つ、て、い、る、の、は、世、界、広、し、い、と、い
 へ、ど、も、当、国、だ、け、の、よ、う、で、あ、り、ま、す。賢、明、で、名、高、い
 貴、王、に、は、あ、い、に、つ、か、な、い、こ、と、と、拜、し、ま、す。が、何、卒、い
 御、心、意、を、大、き、く、も、た、れ、門、戸、を、解、放、し、仏、教、僧、侶、を、優
 遇、さ、さ、れ、る、よ、う、願、い、上、げ、ま、す。と、進、言、し、佛、教、僧、侶、を、認
 め、さ、せ、た、と、い、う、力、量、の、あ、る、方、で、あ、り、ま、す。

後、これがにせものであることが露見しました
 が、「それは申しわけない、私は純金とばかり
 信じておったのです。けしからんことをしたお
 つを厳罰に処しておきます」とケロリとしてお
 ったようでありました。
 が、これ程の腹の太い豪傑でありました。佐野上人
 亡く、なり、ます。お、か、さ、れ、私、の、保、証、人、で、あ、っ、た、松、森、院、で、
 雲、師、に、語、つ、た、言、葉、が、一、俺、は、死、に、た、く、な、い、ぞ、と、い
 く、な、り、か、へ、し、た、言、葉、が、一、俺、は、死、に、た、く、な、い、ぞ、と、い
 かん、な、い、偉、い、人、も、死、の、覚、悟、だ、け、は、出、来、て、い、な、い、の、そ
 か、「と、不、思、議、に、思、つ、た、こ、と、が、あ、り、ま、す。い、な、い、の、真、し
 今、に、な、つ、て、み、ま、す。と、私、は、死、に、た、く、な、い、の、真、し
 相、が、よ、く、解、る、の、で、あ、り、ま、す。死、に、た、く、な、い、の、真、し
 う、の、が、本、当、で、あ、り、ま、す。死、に、た、く、な、い、の、真、し
 我々人間は墓場に向ってフルスピードで進
 んでいるのです。時々刻々死へ向っているの
 です。寝ても起きても墓場と火葬場に向って
 いることだけは絶対であります。この辺で
 しておかれば、死なない生命、不死の生命をつか
 上の二十数億の人間が、すべて願っている事
 であり、人生の最重要なものであります。即
 ちこの事実を人類共通の合目的と名付けるの
 であります。一緒に真剣に考え求めて参りま
 しょう。

以下次号に続く